

学校関係者評価

評価日時：令和2年3月19日（木）15:00～17:00

評価委員：

委員長	後野 文雄	当校 教育学講師 国立舞鶴工業専門学校特命教授 京都市教育委員会特別支援教育スーパーバイザー
委員	児玉 佳代子	医療法人 医誠会 東舞鶴病院 看護部長
委員	梅田 敏子	当校 卒業生 前 舞鶴医療センター 副看護部長
委員	松岡 健	当校 卒業生 学生保護者

会議録：

1. 評価委員、学校職員自己紹介
2. 独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校 学校評価規程の確認
3. 学校の取り組みと評価：看護学校資料に基づき教育主事から説明を行う

1) 重点目標について

重点目標1：国立病院機構および京都府の医療・看護を担う学生の確保と育成

取り組み：①学生募集の訪問校の増加、学校公開における模擬授業の実施

②入試方法の見直し 一般入学試験（第2回）の実施

③国家試験強化学習の実施

評価：・京都府北部の18歳人口が減少するなか、学生の定員確保ができていない。広報活動、入試の見直しの成果が出てきているのではないかと。
・高等学校での進路指導は、二極化の傾向がある。大学受験は上位大学の受験であり、一般大学は選択しない。大学受験しない生徒は専門学校を選択している。広報活動を強化して、専門学校の魅力をさらにアピールしていく必要がある。
・昨年度退学者数が多い。高校生も、学習についていけない、レポートが書けないことにつまずき、進路変更を余儀なくされている。入学審査を合格した学生は、卒業させていく義務がある。今年度は退学者が減少しているため、改善事項を継続していく。学生を理解し、卒業していくための手立て（授業改善）を検討していく必要がある。

【質問】入試の評定と成績・国試合格率は関係があるか。

【回答】成績の下位学生が退学しているわけではない。コミュニケーション力、継続した学習ができない学生が再試験となっている現状である。

重点目標 2：看護教育の質向上

取り組み：①教育理念、教育目標に基づいたカリキュラムの検討

②技術力育成にむけた学習環境の整備、教材作成、放課後の技術指導

③実習指導者会での学生レディネスの理解、レディネスに応じた教材、指導方法の検討

④自己点検・自己評価結果に基づいた改善

評価：・学生によるカリキュラム評価では、全学年の評価が高くなっている。

このことは先生方が努力をされていることのあらわれである。

・サポート体制については、学生はこうしてほしいとは言わない。困り感を持っている学生からどのように引き出していくか方策を検討していくことが必要である。入学時から学生が考える苦手なことや配慮してほしいことを把握して対応していくことが必要である。

・昨年度は、実習評価点が低かった。看護学生の到達度に応じた評価基準を考え、実習指導者と統一して共通理解していく必要がある。公平かつ客観的な評価基準の作成が学校の課題である。

【意見】在校生の意見として、実習期間中の指導者が異なり、指導内容が違うことで困る。指導者は2人以上いてくれると計画発表ができ、患者の希望時間に援助ができる。ケーススタディをまとめるときに記録の持ち帰りを許可してほしいとの意見がある。

【回答】教員は、実習指導のみを行っている状態ではないため、指導時間確保には限界がある。指導内容を理解できるように実習指導者と連携すること、指導方法の検討が必要である。臨床教員を確保したいが人材確保が難しい。記録の管理について、学生に再度説明していく。記録については、個人情報管理の視点で説明し、学校内でできる配慮を継続していく。

重点目標 3：教員の育成と確保

取り組み：①時間外勤務時間短縮にむけた業務計画調整、評価

評価：・面接・指導を必要とする学生がいるなか、ワークライフバランスの対応が必要である。

重点目標 4：経営意識をもった学校運営

取り組み：①学習効果につながる図書・物品の購入

②電気使用量の使用状況の把握、使用方法の見直しの継続

評価：学生評価において、教材・図書の充実の評価は全学年向上しており、満足度は向上したと考える。継続して計画的に行う必要がある。

【全体意見】

- ・教育体制としては整っている。
- ・看護の魅力伝えていくためにも、体験が喜びになるようにしていくこと、看護が楽しいことを伝えていく。
- ・様々な学生がいる現状のなか、学生が自分自身を理解すること、できることとできないことへの対策を知り、自分で取り組めるように支援していくことが必要である。そのためにも周りが理解し認めることが必要である。
- ・教育は、その時代の変化に適応していくことが必要である。現代の学生に合わせる部分（流行）と不易の部分明確にしていく。学生の精神構造を理解し、教員同士で共通認識をしていく。
- ・出前授業など広報活動を引き続き行い直接生徒とかかわる機会を作り、学生確保に努めてほしい。

【総評】

- ・現在行っている学生募集活動は継続しながら、学生確保をしていく。
- ・教育界の変化を教員が理解し対応していく。
- ・学生のカリキュラム評価は上がっており、学生の強みを言語で伝えながら学生支援を行っていく。
- ・学生のできないところを引き上げる、できることを認めて伸ばしていく2側面を行っていくことが必要である。できない学生は自尊心が低いため自尊心を高める。自己肯定感、自己有用感を持たせるような教育を行っていくことが必要である。